

小学校 第2学年 道徳科 学習指導案

北海道教育大学附属旭川小学校
教諭 成田 翔

主題名 きまりをまもって

教材名 17 いいのかな(1時間)

内容項目 C 規則の尊重

本時のねらい たつやさんの行動について考えることをとおして、約束やきまりの大切さに気づき、きまりを守って生活しようとする判断力を育てる。

指導時期 11月ごろ

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

本教材は児童にとって身近な題材であり、登場人物の行動に対して、児童は「それっていいのかな?」といった違和感を覚えることが想定される。こうした情意に訴える要素を生かし、範読では児童が自らの価値観と照らし合わせながら、「いいな」「よくないな」と感じた部分に線を引いて読み進める活動を取り入れる。その後の共有では、大型モニターに「指導者用デジタル教材」を映し出すことで、児童の感じたことを即時的に可視化し、多面的・多角的な思考の広がりを促すことができると考えた。

また、「いいのかな」と悩む二人にどのような言葉をかけるかを考える場面では、低学年の発達段階に配慮し、場面を具体的にイメージしやすくするために「指導者用デジタル教材」の「考えるシート」を活用するとよい。視覚的な補助によって、登場人物の心情や状況をよりリアルに捉えることができ、登場人物に寄り添いながら、「自分だったらどうするか」を主体的に考えるきっかけとなる。

さらに展開の後半では、「みんなのものを使うときに、大切なことはなんでしょう。」という問いに対する児童の考えを「思考ツール」の「クラゲチャート」にまとめ、大型モニターに映して全体で共有する。そうすることで、児童の思考を視覚的に結びつけながら、考えを広げるとともに、互いの気づきや価値観にふれることができると考えた。

本時の展開

	活動内容	デジタル教材の活用
導入	<p>1. 本時で扱う価値への導入を図る。</p> <p>T：みんなで使うものには、どのようなものがありますか。</p> <p>C：遊び道具。</p> <p>C：遊具。</p> <p>C：掃除道具。</p> <p>●「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</p>	<p>●児童とのやりとりの中で、「みんなで使うものを使いたいときに気をつけていることはあるかな。」「どうして約束やきまりがあるのかな。」などと問いかけながら、価値への導入を図る。</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>■ 指導者用</p>  <p>最初のページを開く × おわる</p> <p>目次を開く</p> <p>前回の続きを開く</p> </div>

2. 「いいのかな」を読んで、感想を交流する。

- ◎：「わたし」は給食当番の仕事をちゃんとしていていいなと思った。
- ◎：一輪車を隠しているのはよくないと思った。
- ◎：自分たちだけで使おうとしているところがよくない。
- ◎：たつやさんがきまりを守っていない。

- 教材を読む前に、「指導者用デジタル教材」の「まなびリンク」から「教材の解説」を開き、教材の内容について見通しをもてるようにする。



- 「いいな」と思った部分は青色、「よくないな」と思った部分は赤色のマーカーで線を引く。



- T：たつやさんは、どうして一輪車を隠したしたのでしょうか。
- ◎：どうしても一輪車で遊びたかったから。
- ◎：周りの人のことを考えていなかったから。

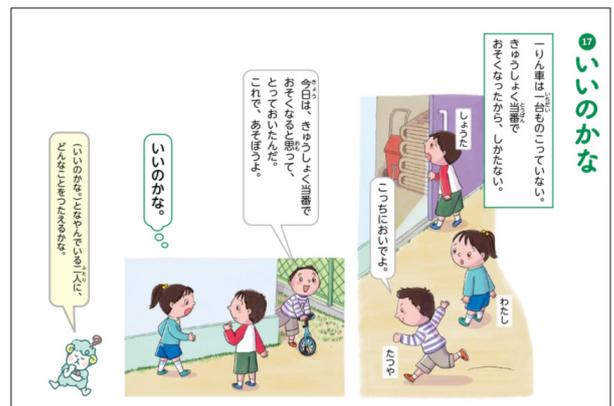
- 理由を問うことで、道徳的な問題の根幹にあるもの気づけるようにする。

3. 約束やきまりを守ることの大切さについて考える。

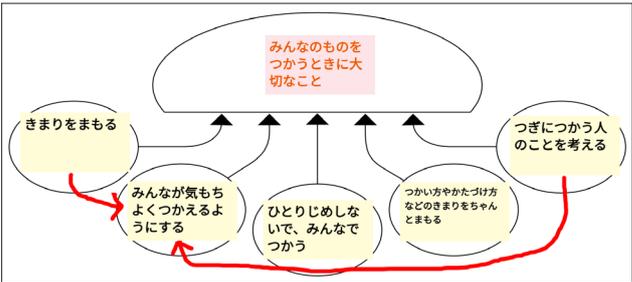
- T：たつやさんは、どうすればよかったのでしょうか。
- ◎：きまりを守らないと楽しく遊べないから、隠さなければよかった。
- ◎：ほかのみんなが使えなくなるから、きまりを守るべきだった。
- T：「いいのかな。」と悩んでいる二人に、どのようなことを伝えますか。
- ◎：きまりを守って遊ぶほうが楽しいよ。
- ◎：一輪車を隠すことはよくないから、戻したほうがいいよ。

- 必要に応じて「きまりを守ろうとすると、自分が楽しくなくなるかもしれないよ。」や「きまりを守らないとどうなるの。」などと問い返すことで、価値にせまっていく。

- 場面をイメージする際の補助として、「指導者用デジタル教材」の「考えるシート」を提示する。



展開

	活動内容	デジタル教材の活用
展開	<p>T：みんなのものを使うときに、大切なことはなんでしょう。</p> <p>C：使い方や片づけ方などのきまりを守って、みんなが気持ちよく使えるようにする。</p> <p>C：独り占めせず、みんなで使うものだとすることを忘れないようにする。</p> <p>C：次に使う人のことを考える。</p>	<p>●「指導者用デジタル教材」の「思考ツール」の「クラゲチャート」を活用し、出された意見をまとめていく。また、出された意見どうしを関連づけ、価値理解を深める。</p> 
まとめ	<p>4. 本時の学習を振り返る。</p> <p>T：今日の学習で学んだことを振り返りましょう。</p>	

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

本時では、教材の範読において、児童が「いいな」「よくないな」と感じた部分に線を引きながら読み進める活動を取り入れた。読み終えた後には、大型モニターに「指導者用デジタル教材」を映し出し、児童が線を引いた箇所を示しながら意見を共有した。これにより、児童一人一人の気づきが即時的に可視化され、他者の視点にふれる中で、自分とは異なる感じ方や考え方に気づく姿が見られた。さらに、「なぜその部分に線を引いたのか」「なぜそのように感じたのか」などについて話し合うことで、一つの場面に対して多面的・多角的に考えることができた。

また、「いいのかな」と悩む登場人物にどんな言葉をかけるかを考える場面では、児童が状況を具体的にイメージしやすくなるよう、「指導者用デジタル教材」の「考えるシート」を活用した。視覚的な支援により、低学年の児童でも登場人物の気持ちや立場をよりリアルに捉えることができ、自分事として考えるきっかけとなった。その結果、登場人物の心情に寄り添いながら、「自分だったらどうするか」と主体的に考え、判断する姿が多く見られた。

さらに、展開の後半では、「みんなのものを使うときに、大切なことはなんでしょう。」という問いに対する児童の意見を「思考ツール」の「クラゲチャート」にまとめ、大型モニターに映し出しながら全体で共有した。それぞれの考えを視覚的に関連づけていくことで、児童は他者の考えに触発され、新たな視点を得ることができた。こうした共有の場をとおして、児童の思考は広がり、価値理解の深化につながった。また、このときに作成した「クラゲチャート」を印刷して教室に掲示することで、児童が約束やきまりを意識しながら生活しようとする姿が見られるようになった。